

N I Eを取り入れたクラス活動と探究活動

宮崎県立宮崎大宮高等学校

教諭 前田貴之 鎌田真琴 藤村晃久 山崎俊一

1. はじめに

「考える人になる」という課題は、今の日本が抱える諸問題のなかでもっとも解決しなければならないものの一つである。そのためには考える為の時間と空間を設ける必要があり、その2つを比較的容易に設けることができるのが学校である。(本当は教えることが山のようにあるわけだが・・・)学校はそういった考える人づくり、つまり社会づくりの場に最適である。「考える人」とは、習ったことだけできる人ではなく、応用力のある人のことである。答えが用意されていないような問題や課題を自分で筋道をたてて論理的に考えていくことも時には必要となる。

ところで我々が毎日手にする新聞にはいろいろな事が書いてある。時事ニュース・政治・経済・世界情勢・宗教・哲学・自然科学・スポーツ……。そういった記事が写真やグラフや図を通して文章で説明してある。これらを読み解くだけでも相当な学力が必要であるし、毎日読むことでそういったことを読み解く学力が少しずつ身についてくると考える。また新聞記事を読むというインプット作業だけに終わらず、記事を読んで自分が考えたことをアウトプットする作業が「考える人」になるためには大切である。他人の意見と自分の意見の違いを確認し、自分の意見を再構築することがとても重要である。ときには是非を問うたり、賛否が分かれたり、そこから議論に発展するともっと深く考えることができ、問題の本質が見えてくるものである。学校にあるこのような作業のための考える時間と空間を利用しない手はない。学校生活のな

かでこのような間を設定することは、生徒一人一人の生涯にわたる「持続可能な学び」につながるとも考えている。教室に新聞を持ち込み始めはただ読むだけかもしれないが、いろいろな記事について深く考えることで「人の痛みがわかり、社会をよりよい方向に変えていこう」という前向きな姿勢とそのための論理的思考力を兼ね備えた人づくりにつながると考える。

本校はN I E実践指定校2年目となり、文科情報科1年生を中心として、新聞を活用したさまざまな取り組みを実践した。本年度はクラス活動におけるN I Eと、「探究」活動(総合的な学習の時間)におけるN I Eの2つを報告する。(前田)

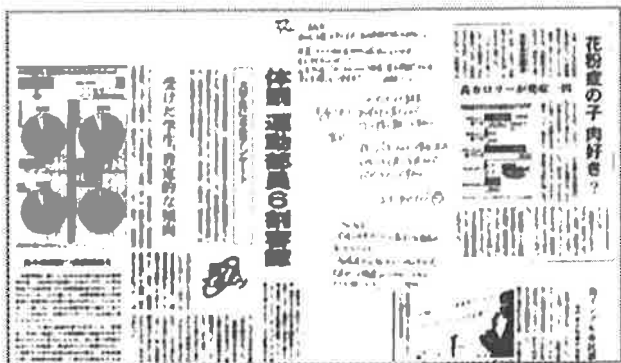
2. 朝のホームルームにおけるN I E

新聞記事を活用したホームルームづくりを今年度は実践してみた。毎日A4サイズ1枚のプリント裏表に1年文科情報科2クラスの日直4人がそれぞれ新聞数社のなかから1つの記事を選び、それに対するコメントを添える。



日直が記事を選び、コメントを書く

教員も自分の目にとまった記事についてコメントを載せ、生徒に是非読んで考えてもらいたいような記事があればコメントを寄せて載せる。



記事に対する自分なりのコメントを残している

そうして前日の放課後に作成したプリントを朝のホームルーム前に配付した。

朝の SHR 前に数分間読ませ、記事を書いた2名とは別の2名がその記事についての自分の考えを1分間スピーチするようにした。最後は担任が総括的なコメントを行い1日がスタートする。



記事について自分の意見をスピーチ

朝の SHR は、ややもすると連絡事項や事務的な連絡に終始することが多い。SHR の時間が十分に確保されていないこととすぐに1時間目が控えていることが理由であると思う。多忙感の中でスタートする1日は慌ただしく、その後の授業も実りのあるものとは言えない。そんな忙しい時間の合間の SHR ではあるが、思い切って連絡事項はプリントに載せ生徒が読めばわかるようにしておき、そのかわり社会問題について少し考えたり、時

には目先の勉強を忘れて隣の友人と議論したりすることはなによりの朝のスタートであり、知的好奇心を喚起する時間となるのではないかと思う。

そして今世の中で何が起っていて、何が必要とされているのかを考えたり、自分の将来はどうあるべきかを1日数分考えたりすることにより、少しずつではあるが「考える人」に近づいていける。そして将来や人生を生徒が語るようになるきっかけとして、今回のホームルームづくりにおける NIE をこのように実践した。

ただし、生徒が選ぶ記事に偏りがある点や、取り組みがそれぞれ時間に追われたりする点が今後の課題であるが、おおむね生徒は配られたプリントを読み、アウトプットの作業こそないものの全員で考える時間となっている。

今後も生徒の感性をゆさぶるすばらしい記事や面白い記事、賛否両論分かれる問題を提示してくれる記事にできるだけ多く触れさせ、深く考えていくことのできる生徒の育成を図りたい。



隣同士で意見交換することもある

朝の SHR における NIE をとおして、生徒が新聞を身近に置き、読み解きながらいろいろな視点でコメントをするようになってきている。また、あまり興味のない生徒でも A4 のプリントが配られれば一応新聞の活字を読

んでおり、まったく記事を目にしないうという生徒はいない。そしてコメントも少しずつ視野の広い意見となっている。また、語学系の学力向上にわずかではあるが貢献できているように思う。(実際、言語活動を苦にしない生徒が増えてきた。)何が必要とされているのか考えるようになり少しずつ変化が見られている。NIEの実践指定はこれで終わるが、朝のSHRにおける新聞を活用したホームルーム作りは今後も継続していきたい。様々な事が書かれている新聞記事をクラス全員で読み解き、いろいろな事を考えたり感じたりすることでホームルーム作りにもよい影響がでてきている。(前田・鎌田)

3. 文科情報科「探究」におけるNIE

本校文科情報科は、総合的な学習の時間「探究」におけるさまざまな活動を通じて、複眼的思考力を育成することを目指している。その中で、新聞を活用できる場面は多い。例えば、「メディアの情報を読み解く」という単元では、複数の新聞の社説を比較したり、生徒自身が作った新聞を相互批評したりすることを通じて、情報を鵜呑みにすることなく論理的かつ公正に判断する力(批判的思考力)の育成を図った(昨年のNIE実践報告書を参照)。また、「提言!裁判員制度を見なおす」という単元では、裁判員制度に関する新聞記事を集め、その中から特に裁判員が死刑判断をすることの是非に焦点化し、ディベートや裁判傍聴、小論文作成を行った。今回は、特にこの裁判員制度に関する「探究」学習について詳述したい。

① 新聞を用いた裁判員制度の現状把握

単元の導入として、新聞を開き、裁判員制度や死刑制度に関する記事を切り抜いた。それらを台紙に貼ってクラスでまとめ、ディベートや小論文作成の際の資料とした。



分担して裁判員制度の記事を集める

② 裁判傍聴

宮崎地方裁判所に行き、実際の裁判を傍聴した。裁判員裁判ではなかったが、本物の法廷、本物の被告人、そして生の裁判を目の前にして、独特の緊迫感や人を裁くということの重さを肌で感じる事ができた。また、裁判官への質疑応答の時間を設けていただき、裁判員制度の実際などについても聞くことができた。



実際の裁判員席に座らせてもらった

③ 裁判員制度に関するディベート

「裁判員制度において、裁判員が死刑判断することは是非か」というテーマでディベートを実施した。肯定側・否定側それぞれの班が、新聞に掲載されたデータなどの根拠を準備し、説得力のある白熱した議論を行うことができた。



反対尋問にも力が入る

(藤村)

4. 2年間のNIE活動をふりかえって

文科情報科では「探究」（総合的な学習の時間）を1～2年で実施し、その学習活動の中でNIEを取り入れた。また、クラス活動においても、担任を中心に日常的・継続的な取り組みを行った。探究活動を終えた生徒のコメントを紹介する。

約2年間の探究を通して、自分の中で変わったと感じることは、情報の正確性にこだわるようになったことです。何気なく友人と会話している時やニュース番組、情報番組などを見ている時などに「これはどこから出た情報だろうか」「何と比較した結果なのか」「これは主観的な見方であって客観的ではないのでは」など立ち止まって考えるようになりました。以前はテレビで見る評論家の意見や新聞の社説を読むと全部受け入れてしまっていたのですが、今では自分の考えと比較したり、何を主張したいのかなどに注目するようになりました。探究活動の意味は、その時はよく分からないことが多いのですが、「批判的思考・複眼的思考」など、2年間の探究活動で得られたものは大きかったなあとと思います。これらの活動が学力に直接つながるかは自分ではわかりませんが、授業を受ける姿勢が受け身から能動的になってきたような気がし

ます。先生に教わったことを全て飲み込んで納得していたのが、今では疑問点や納得できないことは質問するなどして納得できるまでとことん追究するようになったと思います。この姿勢がゆくゆくは学力につながっていくのかなあと、探究を通して感じるようになりました。論文作成においても締切を守ること、先生方の都合も考えること、著作権や書式のルールなどを学ぶよい機会になったと思うので、大学に入学してからの学習、社会人として知っておかなければならないことも少しは身についたのかなあとと思います。自分の発表だけでなく、相手の考えや発表を聞くことで、違う世界観、見方に触れることができ、新鮮であると同時に、自分の考え方や見方が一面的になりがちだということに改めて気づくことができました。探究活動をしてよかったです。



新聞報道の実際についての講話

2年次のゼミナール活動を通して「研究論文」をまとめあげた生徒は、骨太な思考力が身につき、知的なレベルで一回りも二回りも成長する。探究活動の中でNIEを取り入れたことの成果は、このような探究的な思考力やスキルの育成を、洗練された良質の言語材料を通して行える点にある。生徒にとって豊かな言語環境を形成できたことが一番の成果だと思う。(山崎)